2022年 7月8日　千葉大学アカデミック・リンク・センター
第2回ALPSセミナー

参加者アンケート（オンライン：Zoom）
当日参加者数：　129　名　　アンケート提出数：　57　件

本セミナーについて、参加者の皆様から寄せられたご意見・ご感想を以下に掲載いたします。なお、原則原文のまま掲載しておりますが、個人名・組織名が特定できないよう事務局で若干の調整をおこなっておりますことをご了承ください。

１．本日のセミナーで、よくわかったこと、新しい発見などがあればお書きください。

・　キャリア教育、就職支援の違いがお二方のお話を通じて、頭の中が整理出来ました。
・　キャリア支援と就職支援の違いや大阪大学や明海大学でのキャリア教育の理念と取り組み状況がよく分かりました。
・　ありがとうございました。大学によって大きく異なることがわかりました。
・　キャリア支援と就職支援の違い　体制整備の重要性
・　特になし。
・　他大学のキャリア教育・支援に関する情報を得ることができ、とても有意義なセミナーでした。
・　キャリア教育というと就職とリンクされるが、人生設計という長いスパンで考えるということ。大学内でも就職と思っている教員が多いように思う。
・　他大学でのキャリア教育、特に授業や支援体制を聞くことができ貴重な時間でした。
・　前半はキャリアサポートセンターの立ち上げやキャリア教育全般をお一人で精力的にやられた先生で、制度整備の大変さなど大変共感できるところがありました。後半の明海大学様の事例では、高校からの大学への接続の際の思いや、受け入れている学生層について近い感覚があり、そのアプローチ手法等、大変参考になりました。お二方のお話をまた別の機会にでもお伺いしてみたいです。
・　キャリア教育の根本的な目的について再認識できた。
・　キャリア教育と就職支援の違い
・　キャリア教育の考え方や、阪大、明海大での学部教育を通じた流れ、具体的な取組がよくわかりました。
・　文部科学省が唱えるキャリア教育の捉え方について、その一例が理解できた。
・　第一線で学生に向き合っているお二人の先生方のお話を聞くことができて大変良かったです。偏差値の大きく違う大学におけるキャリア教育であっても、共通する課題や問題点が存在することがよくわかりました。
・　日本のキャリア教育は世界に遅れている　学生は、短い文章が適している。
・　大学におけるキャリア教育の現状がよくわかりました。
・　まだまだキャリア＝就職と捉えてしまう現状があること。
・　世界の大学のキャリア教育の現状、重層的なキャリア支援、キャリア支援≠就職支援、大学の責務としてキャリア教育と就職支援を行う必要性
・　キャリア教育の効果測定の考え方
・　キャリア教育必修化の事例が良くわかりました。
・　大学のおけるキャリア支援の目的、必要性
・　大学が生き残っていくためには職員の専門性を高めていくことがさらに必要になっているということがわ

かりました。

- キャリア教育とは単なる就職支援ではなく、長期的な視点を持って行うものであるとわかった。他大学のキャリア支援の現状を知り、弊学においてもキャリア支援について考えを深めたいと感じた。
- 主体的に動けない学生に対し「とことん待つ」という手段があることを知りました。
- 特にありません。
- 私自身は一教員ですがキャリアコンサルタントでもあり、学科内のカリキュラム作成責任者でもあることから、どのようにキャリア科目を大学内で作るのが良いのかを日々考えています。そのため他大学のカリキュラム構成などをお示しいただけたことは大変参考になりました。
- 貴重なお話ありがとうございました。各大学での具体的な取り組み内容や基本方針について、非常によくわかりました。また、それぞれ担当の先生方が試行錯誤を繰り返しながら新しく生み出している最中だということもよくわかりました。
- 家島様の発表からは、旧帝大の学生が多くいるなかのキャリアセンターの役割を、國井様の発表からは私学の 4 年生で卒業、就職をする学生を見据えた支援についてお話いただき、大学の特徴と共に比較することができました。「支援資産」を最大限に活用して支援すること」ということばに、キャリア支援部署以外との連携も需要であると感じました。希望の小さな大学ほど、連携も取りやすくなり、メリットもあると感じました。
- キャリア支援に関する概況について、あらためて理解を深めることができました。また、キャリア教育に関して、本学でも新たな取り組みを検討している中、組織・カリキュラムを含めて、実例を紹介いただき、参考になりました。
- 昭和 50 年代に就職活動を経験した人間の感想ですので、ご了承ください。その頃は、当然ながらキャリア教育のようなものはありませんでした。4 年生の夏ごろにようやく「そろそろ就職活動をしなければいけないな」という時代でした。それから約半世紀近く経過し、今回の両先生の講義を聴きながら、近年の大学では、学生に 1 年生の頃から就職に対する意識を持たせるような仕組みになっていることにある種の感慨を受けました。大阪大学のような優秀な学生であっても例外ではないようです。あの頃はまだ日本の周りにはライバルとなるべき国も少なく、アルバイトばかりやっていた友人でも一流企業に就職できたことを考えると、今の学生は本当に大変だと思います。逆に、大学からこれだけ手厚い就職支援を受けていることにある種のジェラシーを感じます。有意義な講義ありがとうございました
- 従来型の「就職指導・支援」と、2004 年以降の文科省などが主導する「キャリア教育」について、国家資格キャリアコンサルタントとして理解はしていたものの、それを上司・経営層に訴求する所での弱さ（理解していることを発信する点でアカデミックな面での私自身の力不足・設置母体の自治体職員を説得できるだけの根拠立てに割ける時間のなさ）を抱えていた自分にとって、家島・国井両先生の実践を踏まえた講演・質疑応答は大変為になり、勇気づけられました。そして、一人で全部抱え込もうとせず、「リエゾン」としてそれぞれの役割を果たしながら、教職協働してキャリア形成支援を担っていく大切さに改めて気づくことが出来ました。
- キャリア教育と就職支援の差。組織的にバランスよく行うことの必要性。
- キャリア教育は初年次から体系的に取り組み、グループワークなどで対話していくことが大切だと思った。
- キャリアの講座を必修科目として学生に学んでもらうことは、大学卒業後の進路選択やキャリア形成に自律的に関わる姿勢を身に付けさせ、危機に備え、乗り越える土台づくりとなると、強く感じました
- 阪大（国立大学）のキャリア支援の取り組み。キャリア教育と就活支援の違い。
- 他大学のキャリア支援の成り立ちから　キャリア支援内容、①阪大の担当授業例、ビジュアルシラバス、②

明海大学の 4-2　キャリア形成科目の概観　は参考にしていきたいと思いました。

- 両大学の事例を見ても、組織的に取り組むこと、コンセプトを明確にして取り組むことが重要であることがよく分かりました。
- キャリア支援に関して、これほど熱心に大学あげての取り組みをしていることに関心しました。時間がかかり、忍耐が必王と思いますが、少しでも支援できるようこれから計画していきたいと思います。
- キャリア教育の基本的な事、そして本来的な意味でのキャリア教育は我が国ではまだこれからの部分が多いと感じました。
- 大学におけるキャリア教育の現状
- 今後のキャリア支援についてや大学全体での学生のサポートについて
- キャリア教育≠就職支援ではなく、人生支援・生き方を考えていくための教育だということ。漠然ととらえていたことが、わかりやすく　かつ　具体的に教えていただいた。
- キャリア教育の中身が薄っすらではあるが、イメージすることができた。
- キャリア教育と就職支援は重なる部分がある一方で、本学ではまだしっかりと連携した取り組みに至っていないことを痛感しました。明海大学様の取り組みは、その点がよく考えられていて特に参考になりました。
- 詳細な資料と内容でキャリア教育の必要性を再認識できました。
- キャリア教育とは、セミナーの中でご指摘があった通り「大学生の身分である期間に、就職活動が上手くいくように手助けすること」と思っておりました。そうではなく、「生涯をかけての、その人の生き方に関わるこ」と納得しました。それから、今回のテーマとは関係ないのですが、「アクティブラーニング」に関することが、ひと言ふた言話題にあがり、その一瞬の出来事の中に、私がアクティブラーニングに関して疑問に思っている事が説明された部分がありました。少しスッキリしました。
- キャリア教育と就職支援の違いが大変わかりやすく、なぜ大学でキャリア教育が必要なのかを理解することに役立ちました。

２．本日のセミナーで、よくわからなかったこと、疑問に残ったことがあればお書きください。

- 特にないです。
- 特になし。
- 特にありません
- 多様な選択肢への対応
- キャリア教育を受講後、最終的に学生のキャリアにどう影響したのか、特に第一希望の業界や企業につながったのか。
- 大学がキャリア形成にかかる改革に取り組むうえで、文部科学省が唱えるキャリア用語の定義を、全学的な視点から解釈し、体制を整えた事例を知りたい。
- 特にありません。
- 家島先生が、キャリア教育の効果測定でお話しされた「卒業後調査」ですが、具体的に卒業生に対してどのような調査をされるのでしょうか？質問しようと思っていたのですが、時間切れになってしまいました。
- キャリアセンターのような組織を立ち上げる際の学内の動向、キャリア教育科目で行う具体的な内容、科目は必修が良いのか選択が良いのか、学内での学生の状況の把握方法
- 教職員の膨大な負担感をどのように軽減するか？
- 広義な内容で、早い速度での解説のため、テキストで再確認させていただきます。
- 特にありません。概ねよくわかりました。
- 医療系の学生においては、入学時に職業の方向性が決まっていると感じている場合も多く、キャリア教育科目に対してなかなか熱心に取り組んではくれないことが多く、（リカレントでは非常に熱心な場合がおおい

のですが、、）どのようにモチベーションを高めてあげたらよいのかと疑問に思っています。

- あくまでも学生に対するサービスのお話でしたので、今後は産学の連携や企業に対するアプローチなどを知りたいと思います。
- 特段ありません。
- 例えば、公務員を目指している学生や大学院を希望している学生には、大学ではどのような対応をしているのでしょうか。
- キャリア教育を初年次から行えている機関と、本学のようにCOC+補助金が切れたと同時に、中断＋3年生からのインターンシップに重きをおいた体制＝キャリア形成支援について専門的知識のある特任教員・特任職員共に不在となり、圧倒的なマンパワー不足の中で（学部・大学院含め1学年1,000人規模で実働の専任事務職員2人＋本学の工学系ティニュア教員から、定年後再雇用のキャリア特任教授1名、相談職員1名で対応）の組織力の差をいかに埋めていく手法があるのか。正解はないとは思いますが、新型コロナ禍を乗り切っていくためのノウハウで、規模は違えど、特に同じ経済圏、医学部を除けは同じような学部構成の大阪大学さんのキャリアセンター運営のノウハウの部分（リエゾン型対応その中でも、就職内定者によるある種の後輩支援プログラム「本気塾」）についてより詳しくご説明を聞きたかったです。
- 特になし
- キャリア支援ですが実際の就職率や卒業後の支援内容、積極的でない学生の支援の具体例についていつか聞いてみたいです。
- 明海大学様では、P17＜三位一体のキャリア支援＞として、教員・職員・就活支援コーチが一体となって取り組んでいるとお聞きしました。貴学のような大学全体におけるキャリア教育の重要性を浸透させるために、どなたが主導で行っているのでしょうか。やはり学長でしょうか。というのも、本学では未だに「キャリア＝就職支援」で、就職活動のみ支えればいいんだろうという考え方が主導となっており、キャリア教育を重要視していないため、お聞きしたいです。
- 実践において、教員の熱心さはよく伝わりましたが全学教員あげての意識の向上についてどのようにされていらっしゃるのかお聞きしたかったです。
- 大学におけるキャリア教育の評価のあり方
- 大学生が多様化（障害・LGBTQなど含む）が進む中で、マス教育を行うときの配慮や個別対応などは今後どのように考えていくとよいのか。

３．大学における教育・学修支援の在り方についてのお考え、教育・学修支援のために必要と思う資質・能力、また、教育・学修支援のご所属先での取組事例やご存知の特徴ある事例などがあればお書きください。

- 特になし。
- 本学でもキャリア教育がありますが、今回のセミナーを通して、バラバラに展開されている学科目をつなげて学生が可視化できる形で提示したいと思いました。
- 自律と支援のバランスは、大学のキャリアサポートセンターの課題であり、実践がキーワードに感じています。
- わたしの本務校である立正大学でも、かなり早い時期からキャリアサポートセンターを立ち上げ、就職支援に当たっていますが、いわゆる就職支援の域を出ていないのが問題で、その抜本的解決のためにはやはり、キャリア教育の専任・専門教員が必要であることがよくわかりました。
- 事例は特にありません。
- 低学年次からのキャリア意識の醸成のために「ゲストスピーカー」による人生の語り「ナラティブ」を中心に設計した講座を実施していた。
- 階層的なキャリア教育を展開できるようなキャリア教育に関する知見、キャリアコンサルティングやコーチングのような対人支援のスキル

- 個々の学生を理解する、個人を尊重する姿勢
- 手前味噌ですが、現在本学（札幌国際大学）はキャリア教育とキャリア支援を発展的に融合させています。残念ながら本学の場合、多くの学生は社会に存在している企業・団体を知りません。今年度から就職ガイダンスで行っていた面接講座をビジネスコミュニケーションと位置づけ授業内で実施しています。採用担当者を通して企業・団体を知ることが目的のひとつでした。学科の垣根を超えて合同開催したこともありますが、あらゆる気づきがありました。招聘企業・団体は3回で30社です。
- 特にありません。
- 本学にはキャリア支援課がございますが、理論だてた今回のような取り組みまでは発展されていません。
- キャリア教育については以下の理由から、実践が非常に難しいと感じています。個人の生き方に「正解はない」こと、「生き方を教える」ということへの矛盾、とても速い時代の変化。結局キャリア教育は「幅広い知識を持つ教員が」「社会システムや時代背景の話をしながら」「学生の自ら考え決める力を養う」ということになるのかなと思っています。最近はキャリア教育の一環として投資や資産形成の話を聞きたいというニーズも上がってきているように感じます。
- キャリア教育、支援は、学生にとって最も重要であると考えるが、カリキュラムや正課外との連携を意識的に行なっていく必要があるのではないかと感じている。
- 教員・職員ともに、学生のキャリア支援にもっと意識を向けるべきだと感じております。現在は、学事部におりますが、以前はキャリアサポートセンターにおりましたので、異動してきて強く感じているところです。学生に接する一人ひとりが挨拶をはじめ必然的に学生のキャリア支援に関わっていると思いますので、組織全体で取り組むことは教務の問題だけでなく、必要だと感じています。また、本学でもハイブリットでのガイダンスやオンラインでのキャリア相談や予約システム、また、オンデマンドでの配信等取り組んでおります。キャリアに関する授業を、カウンセラーとして従事している者が担当しているケースもあり、キャリア支援から就職支援への繋がりにも取り組んでいます。
- 特になし
- 両先生の講演の根底にもありましたが、キャリア教育の方向性と、DPや法人運営指標・目標との真の整合性を図る必要があると思います。法人経営側も各種調査報道（週刊ダイヤモンドなどのランキング）に踊らされることなく、教育研究サービスの「価値の交換」＝マーケティング、ブランディングの思考に基づき、広報セクション・同窓会とも連携して、「20～30年後にあの大学を卒業してよかった。キャリアの危機も乗り越えられた」という良質なブランディングができればと思っています。現職では、設置母体の方針もあり、就職内定率ありきの旧来型「就職支援」にとどまっています。前職の京都市内の仏教系大学では、目先の就職率より、まさにこの視点でキャリア支援を手厚く行っていたため、卒業生もしっかりと働き続けたり、また、人生の岐路でも相談に乗れる教員・職員の体制を築いていたので、自然と企業・卒業生からの信頼が集まる不思議なキャリア支援～同窓会組織が形成されていたなと思います。
- 折に触れ、自分のキャリアは自分で作っていくものだ、ということを学生に伝えることが必要と考えます。
- もちろんあります。ですが、テーマとして大きく、アンケートで語りつくせませんので割愛させていただきます。
- 残念ながら特徴のある事例がございません。担当者の人数も少ないため、学内のキャリア教育に対する意識を変えることが先決かと思っています。
- 入学試験形式が多様化することにより、入学してから学習場や身体上など多くの課題を抱えている学生がいます。教員がこのような学生の支援をしているわけですが、守備範囲をすでに超えています。専門家と教育者との連携が必要であると考えています。

- 色々なお取組、成功事例を伺って感じることは、形式、システムの問題ではなく、取り組まれる教職員、学生の姿勢等の「気持ち」「マインド」の部分が非常に大きく大事であるといった点です。
- 該当なし
- 本学でのキャリア教育の位置づけ、意義等を明確に示し、本格的なカリキュラムへの導入を考える必要性を感じた。
- キャリア教育では、講義・グループワークなど様々な形態で行うため、キャリア教育に関する「知識」だけでなく、プレゼンテーション力やファシリテーション力など様々なスキルが必要だと感じています。
- セミナーを申し込むにあたって、「図書館の職員がどうしてキャリア教育というテーマのセミナーに参加するの?」と言われてしまいました。現在の配属先と関係ないセミナーに参加することを無駄なことと捉えないでほしいと思います。大学職員であれば、どの部署に配属されているかにかかわらず、専門家のお話を聞くことはとても有意義な事と思います。

４．オンラインセミナーを受けてみて、ご不便に感じたこと、改善してほしいことがありましたら、ご自由に記入してください。

- 不自由なく受講できました。ありがとうございました。
- 不便は感じませんでした。
- 特にありません
- 特になし
- 特にありません。
- 特にありません。大変聞きやすいセミナーでした。ありがとうございました。
- 質疑応答（質問タイム）をもう少し多めにとって頂ければもっとよかったと思います。（講演時間を少し短めにして）
- 特にありませんでした。
- ボリュームが多く、レジメが重要
- 特にありません。大変聴きやすかったです。学会ではフリーズもたまにありますが、そういうトラブルもありませんでしたから、事前の準備に相当な時間をかけたのだと思います。
- 気軽に受講できる点がよい。
- 質問時間がもっと欲しいと思いました。他者からの質問を聞いていて新たな疑問が生じた場合などには時間不足になりがちだと思います。
- 事務連絡や冒頭あいさつは事前録画でも良いのではないでしょうか。参加者属性や投票結果公表などは講義の時間とは別に取っていただきたかったです。
- 特段ありません。
- 特になし
- 特にありません。円滑な運営に感謝申し上げます。
- 基調講演はもっと余裕を持ってじっくり話を聞きたかった。
- オンラインだから参加できました。感謝です
- 特にありません。映像も音声も全く問題なかったです。
- 特にございませんでした。ありがとうございました。

- 該当なし
- 今回のオンラインセミナーはライブ感もあり良かったです。
- 残念ながら、私は１回聞いただけでは、覚えきれないし理解できません。途中で何度か、「今の話、巻き戻してもう一度聞き直したい...」と思いました。可能であれば、しばらくの期間、アーカイブとして動画をどこかに残していただくことはできないでしょうか。

５．本日の内容について等、その他、自由にご意見をお書きください。

- 急遽業務の都合ですべて視聴することができなくなってしまいました。申し訳ありません。今後も積極的にセミナーを受講させていただきたいと思います。よろしくお願いいたします。
- 大変、勉強になりました。
- 大変興味深い内容でした。
- 講師の方の説明内容が明確に伝わり、非常にわかりやすかったです。
- 家島先生のお話に関していえば、もう少し阪大の取組についてゆっくり時間をとってご説明いただきたかったです。持ち時間が短くで残念でしたが、旧帝大というキャリア教育とは無縁？と思われる大学での取り組みはとても興味深かったです。
- 千葉大学の取り組みもうかがえるのかと思っておりましたが、他大学のお話だけでしたので、それが残念でした。
- 本日はありがとうございました。
- 本日はありがとうございました。
- 貴重なご講義ありがとうございました。
- 国井先生はALPSでの学びを実践に確実に生かしているということがよくわかりました。
- 大変失礼ですが、図書館担当教員からメールが回ってきて、たまたま午後の授業がなかったので、何となく参加させていただきました。しかし聞いているうちに、耳に入ってくることは参考になることばかり、本当に参加して良かったです。
- キャリア教育への取り組みへの話が少なく、どちらかというとキャリア支援の話が中心であったような気がします。もう少しキャリア教育についてもお話をしてもらいたかった。
- さわりの内容でしたが、素晴らしい内容でした。ありがとうございました。
- 大学での具体的なカリキュラムを例にご説明いただけて、大変分かりやすく、あっという間でした。Zoomの機能を効率的に利用されており、その点も参考になりました。ありがとうございました。
- とても興味深いワードがたくさん出て来て聞きごたえがありました。キャリア教育について研究していきたいと思いました。
- 大変貴重な機会をいただきありがとうございました。講演中に提示されました他資料についても参考にさせていただきます。
- 私の長女も帰省時にキャリア教育について話していましたが、今回の講義を聴いてこのような事なのかと納得いたしました。就職を抱えている娘を持つ父親としても大変ありがたい講義でした。
- 所属先と同じ経済圏内にある大阪大学（国立大学）そして、別の首都圏にある私立大学のキャリア支援の実情を教員側の立場からお話を伺くことが出来、参考になりました。
- 仕事の都合上、途中退席しました。アーカイブで拝聴することはできないでしょうか？
- 阪大の先生の書籍「大学におけるキャリア教育とは何か」を是非読んでみたいと思った。
- 他大学の、それぞれ特色のある大学の事例が聞けてとてもためになりました。

・　他大学の事例を中心とした内容のため大変良い企画でした。また次回もよろしくお願いします。
・　３．の解答と同じです。今後大学教員が教育・研究を旨としながら、教育の範疇である生活指導やキャリア支援、学習支援や障碍者支援等かなりオーバーワークを強いられています。何らかの対策を立てないと本来のキャリア支援を含めた教育・研究が時間的に困難となってくると思われます。
・　教職員ができるだけ多く、こういったキャリア教育セミナーを受け、キャリア教育に対する認識を共通にしていい、学生に対することができると効果があがるのではないかと思いました。
・　次回、機会があれば低学年次のキャリア教育の具体事例やインターンシップに関する事例も知りたいと思います。
・　今後、感染症が終息したとしても、オンライン形式でのセミナーを続けていただきたいです。出張の予算の心配がなく、遠くへ移動する時間も必要ないので、とても便利に感じます。
・　オンラインで参加させていただき、ありがとうございました。

６．次の（１）、（２）について、該当するものに〇をつけてください。

（１）　a. 千葉大学外の方　50 名　　b. 千葉大学内の方　7 名

（２）　a. 学生 0 名　ｂ . 教員 18 名　ｃ . 大学職員（図書館職員を除く）29 名　d. 図書館職員 7 名
　　e. 出版関係　0 名　　f. その他　3 名

７．千葉大学 アカデミック・リンク・センターでは、セミナー及びシンポジウムの開催や関連する情報を提供しています。これらの情報を希望される方は、お名前・ご所属・メールアドレスをご記入ください。（既に登録されている方は引き続きお届けしますので、空欄で結構です）

お名前：（　　）　　ご所属：（　　）
電子メールアドレス：　□申込時に利用したもの　□それ以外（　　）

ご協力ありがとうございました。

※　22 名が新規に継続的な情報提供を希望